

公益財団法人 日本中国国際教育交流協会

【2024年度の歩み 会報第31号】



2025年3月発行

目次

■巻頭言 公益財団法人日本中国国際教育交流協会 代表理事 中村武志	2
■教育交流事業	3
□教育交流・派遣事業	3
◇役員訪中団	
□教育交流・受入事業	4
□教育交流・支援事業	4
◇河北省保定市阜平县音楽教育支援	
2024年度教育支援に関する協定書	
2024年度実績報告関係文書	
□教育交流・研究等助成事業	10
◇第9回教育交流ホームステイ	
◇第7回日中教育交流シンポジウム	
◇第1回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール	
◇第20回日本語作文コンクール	
■機関関係	29
(1) 2023(令和5)年度事業・会議報告	29
(2) 2023(令和5)年度事業報告	30
(3) 2024(令和6)年度事業計画	32
(4) 2024(令和6)年度収支予算書	33
(5) 2024(令和6)年度役員・評議員名簿	35
■協会の歩み	36
■編集後記	表紙3

■表紙写真

①	②
③	④

- ① 役員訪中団（北京市・阜平县）
② 第9回教育交流ホームステイ in 山梨
③ 第7回日中教育文化交流シンポジウム
④ 第1回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール

巻頭言



公益財団法人日本中国国際教育交流協会

代表理事 中村 武志

公益財団法人日本中国国際教育交流協会に対しまして、日頃より多くの方々から励ましやご支援を賜っておりますこと、心から御礼申し上げます。

2020年以降「コロナ禍」により思うように活動できない日々が続いておりましたが、昨年9月、実に5年ぶりに中国を訪問することができました。私を含め3人という、訪中団と呼ぶには少し小さな規模ではありましたが、支援先である河北省保定市阜平県の職業技術教育センターはじめ阜平県白河小学校、北京の中国宋慶齡基金会本部を訪問することができ、阜平県教育局の幹部の皆さんや宋慶齡基金会の皆さん方と意見交換の場を持つこともできました。それぞれの場では、貧困によって子どもの教育が奪われてはならないこと、そのために教育機関のみならず関係機関は全力を尽くさなければならないこと、そしてこの間の音楽教育を中心とした教育交流の意義・成果と継続の必要性など多くのことが確認・共有されました。あらためて宋慶齡基金会はじめご尽力いただいたすべての方々に感謝申し上げます。

幸い昨年11月30日から中国へのビザなし渡航も可能になりました。今回の訪中を出発点とし、懸案である視察研修訪中団派遣をはじめ教育交流の具体化について、さまざまな場で議論を重ねていきたいと考えます。

さて、この稿を書いている1月末時点では、ガザ地区では一時停戦がなされたというものの、ウクライナはじめ各地の戦乱は終息の気配すら見せていません。また「弱者・少数者の支援より自らの利益を追求する風潮」が強まっているように思えます。人類にとっての「春」はいつ来るのか、暗澹たる気持ちになってしまいます。

しかし嘆いていてばかりもいられません。教育はともに未来を語ること。笑顔でいる明日の自分、そして誰かに笑顔を届けている明日の自分を思い描く営みでありましょう。だとすれば、教育にはどんなに厳しい現実でも変えていける力があるはずです。小さな小さな当協会ですが、多くの人たちと力を合わせながら「交流」を軸にその活動に加わり続けていきたいと考えます。「春」を呼ぶ一助となるためにも……。

最後になりましたが、今後とも、多くの教育関係団体・都道府県教育関係者の方々のより一層のご支援を賜りますことを深甚よりお願い申し上げます。

教育交流事業

中国宋慶齡基金会との「教育交流プロジェクト」の推進確認のもとに、2021年度からの5か年計画の4年次として、河北省保定市阜平県における取り組みの推進を行いました。教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる草の根教育交流をより深く、多様に発展させることを目指して計画を進めました。2024年度は、早期に「役員訪中団」の派遣を行い、「視察研修訪中団」の派遣、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受入、「第5回音楽教育交流会」の開催等の取り組みを進めようと計画しました。しかしながら、年度の早い時期に…と考えていた「役員訪中団」の派遣は、ビザ取得手続き等の遅れで、ようやく9月に実施できたという状況でした。それでも、5年ぶりの訪中ではありましたが、中国宋慶齡基金会との「教育交流プロジェクト」について、前向きな強い共同意識を確認することができ、また、今回のプロジェクトの推進地区である河北省保定市阜平県教育局、職業技術教育センター、県立小学校の関係者と今後の教育交流について意見交換ができ意思確認が計れたことは大きな成果でした。結果として、教育交流派遣事業については「視察研修訪中団」の派遣を、受け入れ事業については「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受入についての確認を、教育交流の具体的内容としては「第5回音楽教育交流会」の開催等についての確認を、関係者行うことができました。また、教育交流支援事業については、宋慶齡基金会との協議を通して、4年次となる「音楽教育支援」を行いました。教育交流研究等助成事業については、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪をも広げてきたホームステイ事業を、「第8回教育交流ホームステイ in 山梨」という形で実施しました。さらに、今年度は、長年の懸案であった、「田中一郎記念奨学基金」による、主に東南アジアからの留学生を対象とした、日本語作文コンクールを、「第1回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール」として実施しました。「第7回日中教育文化交流シンポジウム」の開催については、二部構成として、一部は、第6回シンポジウムの「日中教育交流の意義について、協会の今までの取り組みの検証も踏まえて考えよう」をさらに発展させる形で、「役員訪中団」の報告を踏まえ、教育交流の成果と課題を検証しました。また、第二部は、「第20回日本語作文コンクール」ともコラボした形で、6人の入賞者にシンポジストとして参加してもらい、日中の教育文化交流について考えました。協会が後援している「第20回日本語作文コンクール」については、例年のように作品の審査と「教育賞」受賞者の選定を行いました。また、リモートによる「第7回日中ユースフォーラム」にもコメント・討論者として参加しました。

□ 教育交流・派遣事業

今年度は、5年ぶりに訪中することができました。役員訪中団という形で、中国宋慶齡基金会と河北省保定市阜平県を訪れ、基金会においては基金部と、阜平県においては県当局、教育局及び教育関係者と話し合いを持つことができました。その結果として、今後の「教育交流プロジェクト」をどのように具体的に進めて行くかの確認を行うことができました。

(1) 役員訪中団実施内容

- | | |
|--------------|---|
| 1. 訪中期日・期間 | 2024年9月9日(月)～12日(木) 3泊4日 |
| 2. 訪 問 地 | 北京市及び河北省保定市阜平県 |
| 3. 訪 中 役 員 | 中村武志＝代表理事
山門 真＝監査
赤岡直人＝業務執行理事 計3名 |
| 4. 訪 問 交 流 先 | 中国宋慶齡基金会
阜平県教育局・阜平県職業技術教育センター |
| 5. 受 入 機 関 | 中国宋慶齡基金会（交流訪問視察査証招聘状発行） |
| 6. 宿 泊 場 所 | 宋慶齡基金会宿泊施設
阜平県職業技術教育センター宿泊施設 |

(2) 訪中日程表

9月9日(月)	14:00	東京羽田空港発 — 16:40 北京首都空港着 (フライト情報: 中国国際航空 CA0182)
	18:30	中国宋慶齡青少年科学文化交流センターにチェックイン
9月10日(火)	07:30	朝食(場所: 新センターの西洋料理レストラン、ルームカード使用)
	08:00-11:30	阜平県職業技術教育センターへ車で移動
	12:00-13:30	昼食(場所: 阜平県職業技術教育センター)
	13:30-15:00	阜平県職業技術教育センターの視察 (ルート: 音楽教育用品の使用状況確認→学校南広場→教育扶貧展示館→ 国管局の支援30周年展示館→大明眼鏡生産実習基地→東実習棟1階)
	15:00-15:50	阜平県白河小学校を視察し、合唱団の演奏を鑑賞
	16:00-17:30	阜平県教育体育局との交流会
	18:00	夕食
9月11日(水)	08:00	朝食(場所: 阜平県職業技術教育センター)
	08:30-11:30	北京へ車で戻る
	11:30-12:30	昼食
	13:30-15:00	中国宋慶齡青少年科学文化交流センターを見学
	17:00-18:00	会見(場所: 中国風会議室)
	18:00	夕食会
9月12日(木)	07:30	朝食(場所: 新センターの西洋料理レストラン、ルームカード使用)
	09:00-10:40	北京首都空港へ出発
	12:40	北京首都空港発 — 17:25 東京羽田空港着 (フライト情報: 中国国際航空 CA0167)

(3) 阜平県における教育交流プロジェクト推進会議の内容

司会者: 県党委員会常務委員、政府副県長戈陽禎氏

1. 教育体育局党委員会書記、局長周邦紅氏の阜平県教育事業に関する状況を報告
2. 出席者同士の意見交流
3. 県党委員会常務委員、党委員会事務局局長臧紅建氏挨拶
4. 日中国際教育交流協会代表理事中村武志氏挨拶
5. 中国宋慶齡基金会プロジェクト部副部長張智氏挨拶

☐ 教育交流・受入事業

「教育交流プロジェクト」の実施計画の中で、今まで易県や東平県で行い、実績を上げてきた音楽教育を中心とする教育交流を柱として、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れについて検討していくことになりました。

☐ 教育交流・支援事業

◇河北省保定市阜平県音楽教育支援

新たな「教育交流プロジェクト」の4年度として、河北省保定市阜平県への音楽教育支援を行いました。支援の規模としては、過去の取り組みと同じように、100万円/年で行っていくこととしました。

(1) 2024年度教育支援に関する協定書

LEGAL DOCUMENT

協定書

宋基金会法字(2024)127号

甲方: 公益財団法人日本中国国際教育交流協会

法定代表者: 中村武志

連絡先: 赤岡直人

電話番号: 0081-55-269-6533

メールアドレス: info@ajciee.or.jp

住所: 400-0031 日本国山梨県甲府市丸の内2-32-16 甲府丸の内マンション302

乙方: 中国宋慶齡基金会

法定代表者: 李安晋

連絡先: 王璐璐

電話番号: 0086-10-86601941

メールアドレス: wangll@scl.org

住所: 中華人民共和国北京市東城区東安門大街82号院

甲方公益財団法人日本中国国際教育交流協会と乙方中国宋慶齡基金会は、日中両国の友好を促進するため、特に中国で経済発展途上地域の学校教育条件を改善し、またより多くの子どもに教育を受ける機会を提供するため、今後共同の活動領域において互いに協力していくことで合意した。こうした目的を達成するため、以下の協定を結ぶ。

第一条(目的及び用途)

LEGAL DOCUMENT

LEGAL DOCUMENT

甲方は、中国河北省保定市阜平县の学校に対する音楽教育支援を乙方を通して行う。これによって音楽教育環境を改善し、水準を向上させる。

第二条（寄付及び総括報告）

- 2024 年、甲方は中国河北省保定市阜平县の職業技術教育にかかわる音楽教育条件・教育レベルを改善するために 100 万円を寄付する。
- 甲方は 2024 年 10 月 30 日前に 100 万日本円を乙方の指定口座に振り込む。乙方は振込を受け次第、100 万日本円を河北省保定市阜平县教育体育局に送り、当地職業技術教育の振興に使う。
- 乙方は 2025 年 4 月 30 日までに、実施報告（具体的プロジェクトの実施内容、決算を含む）を甲方に提出する。

第三条 争議解決案と適用法律

- 本契約の締結、履行および解釈並びに紛争の解決は、中国（香港、マカオ、台湾地区を除く）の法令に準拠する。
- 契約の履行過程において生じるいかなる紛争について、双方はまず友好的に協議する。協議が不調に終わった場合、いずれかの当事者は北京仲裁委员会に仲裁を申し立てることができ、当該委員会の現行有効な仲裁規則に従って仲裁を行う。仲裁の裁定は最終的なものであり、双方に対して拘束力を持つ。

第四条 その他

- 双方は以上の協定に同意し、この協定を日本語と中国語共に各六部を作成し、双方の代表が署名捺印の上、それぞれ三部を保存するものとする。中文版と日本語

LEGAL DOCUMENT

LEGAL DOCUMENT

版に不一致がある場合、中文版を優先するものとする。

- 本契約に定めのない事項については、双方で別途協議の上解決し、合意事項は補足契約の形で確認されるものとする。
- 本契約は双方が署名捺印した日から効力を発生する。

甲方（捺印）：

法定代表人或いは授權代理人

（サイン）：

中村武志

2024 年 10 月 6 日



乙方（捺印）：

法定代表人或いは授權代理人

（サイン）

2024 年 9 月 24 日



LEGAL DOCUMENT

(2) 阜平县教育体育局による阜平县職業技術教育センターの音楽器材購入プロジェクトのまとめ報告

2025年2月、阜平县職業技術教育センターは音楽器材の購入作業を開始し、サククス、フルート、クラリネットなどの音楽器材14点を購入し、資金56,110円を費やしました。ここに、阜平县職業技術教育センターが寄付金を使用して音楽器材を購入した運営状況と収支状況について、貴会に報告し、以下のようにまとめます。

一、プロジェクトの背景

阜平县職業技術教育センターの音楽教育の発展をさらに推進し、農村振興を支援するため、2025年1月に阜平县職業技術教育センターの申請を受け、我局は貴会と資金援助協定を締結し、貴会から47,000円の寄付金を提供いただき、すべてサククスやフルートなどの音楽器材の購入に充てました。

二、プロジェクトの状況

我局の監督の下、阜平县職業技術教育センターは政府調達規定に厳格に従い、三方見積もりを実施し、市場から3社の優良な音楽器材サプライヤーを選定して見積もりを取りました。河北九日文化發展有限公司の見積もりは56,110元、高碑店市文明街奇音琴行の見積もりは57,160元、高碑店市迎賓路星の海楽器店の見積もりは56,560元でした。学校事務会の審議を経て、最適なサプライヤーを決定し、河北九日文化發展有限公司の音楽器材を購入しました。

2025年2月14日、阜平县職業技術教育センターは河北九日文化發展有限公司と音楽器材の購入契約を締結しました。2025年2月19日には、すべての音楽器材が到着し、学校の購入検収チーム（購入責任者、購入主管部門責任者、学校主管校長）による検収が行われ、数量が一致し、品質が合格であることが確認されました。契約の規定に従い、購入資金はすでに支払い済みです。

三、プロジェクトの効果

今回の音楽器材購入プロジェクトの実施により、阜平县職業技術教育センターの音楽教育水準は著しく向上しました。新たに購入したサククスやフルートなどの器材は、学校の音楽教育資源を豊かにするだけでなく、学生により広範な学習プラットフォームを提供しました。今回の購入により、阜平县職業技術教育センターは14点の楽器を購入し、2023年に購入した楽器と合わせて、民楽団1団（16人）、鼓笛隊1隊（65人）、合唱団1団（45人）、木管楽団1団（14人）を編成しました。これにより、学生の音楽素養と総合的な素質の向上が効果的に促進されました。同時に、これにより学校の特色ある教育の発展に新たな活力が注入され、学校の教育品質と影響力がさらに向上しました。

さらに、このプロジェクトは、地域の音楽教育水準の向上や、専門技能と優れた音楽素養を備えた人材の育成に強力な支援を提供しました。また、これは社会各界が阜平县の教育事業に関心を持ち、支援していることを示しており、地域の教育事業の持続可能な健全な発展を推進するのに役立っています。

四、費用状況

サプライヤーが提供した価格に基づき、14点の音楽器材の価格は56,110円です。我局のリーダーシップによる協議の結果、貴会と締結した資金援助協定に基づき、援助資金の総額は47,000円であり、すでに47,000円を支払いました。

以上が、阜平县職業技術教育センターの音楽器材購入の運営状況と収支状況に関する報告です。ここに報告し、貴会の審議をお願い申し上げます。

添付資料：

- 阜平县職業技術教育センターの楽器購入契約書及び領収書
- 阜平县職業技術教育センターの楽器使用状況資料

阜平县教育体育局
2025年2月19日

(3) 2024年度決算報告書

阜平县教育体育局による阜平县職業技術教育センターの音楽器材購入に関するプロジェクト決算報告

支出事項	明細科目					決算金額
卓平県職業技術教育センター 音楽器材購入プロジェクト	新たにサククス、フルートなどの器材14点を購入し、学校の音楽教育資源を充実させ、学生により広範な学習プラットフォームを提供しました。2023年に購入した楽器と合わせて、民楽団1組16人、鼓笛隊1組65人、合唱団1組45人、木管楽団1組14人を編成し、学生の音楽素養と総合的な能力の向上に効果的に寄与しました。					56110元 (うち9110元は卓平県教育体育局が負担)
	詳細以下：					
	番号	規格	数量	単価	金額合計	
	1	ストレートサククス ASSP-601	1	4650	4650	
	2	アルトサククス ASAL-800	2	4150	8300	
	3	テナーサククス ASTS-500	2	5800	11600	
	4	フルート ASFL-221	2	1950	3900	
	5	ピッコロ ASPI-710	1	2260	2260	
	6	クラリネット ASCL-102	4	1950	7800	
	7	オーボエ ASOB-950	2	8800	17600	

第9回教育交流ホームステイ in 山梨（教育交流 研究等助成事業）

外国人留学生は、年々増加しています。特に多いのは、中国からの留学生です。彼らは日本での生活の間に、より多くのことを経験し、また学ぼうと意欲に燃えています。そうした留学生に関わって、日中の教育交流及び文化交流そして強い相互信頼による結びつきを目指す協会の願いとしては、「日本を理解し、日本と母国との友好を担ってくれる人材により多く育て欲しい」と、言うことがあると思います。日本に留学している学生のほとんどは、日本語学校に通学していますが、特に入学初年度は語学力も十分でない上に、なれない異文化の中で、学業・日常生活面で困難に直面している学生も多いと言われています。協会では、こうした留学生の語学力の向上をめざし、日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事業としてホームステイ事業を実施しています。コロナ禍の影響により、2019年度の「第8回教育交流ホームステイ in 神奈川」の実施から、今年度の再開までに5年も経過してしまいました。この取り組みは、協会の事業として大いに意義があるという評価をいただいていたので、今年度「第9回教育交流ホームステイ in 山梨」として実施できたことは、大きな喜びです。

（1）第9回教育交流ホームステイ実施要項

- 1 実施目的 中国人留学生の日本語学習の一助として、日本家庭でのホームステイを体験し、ホストとの交流を通して日本語の語学力を磨き、日本人及び日本文化に対する理解を深め、日中両国の友好の礎を担う人材を育成すること
- 2 実施期日 2024（令和6）年8月10日（土）から12日（月） 2泊3日
- 3 実施場所 山梨県下の小中学校教職員の家庭
- 4 対象者 中国からの留学生（大学・大学院入学のための語学研修生）
- 5 募集数 5人（ホストファミリー5家庭）
- 6 募集方法
 - ・留学生5名については、フジ国際語学院等を通じて公募・選考する。
 - ・ホストファミリーについては、山梨県の教職員関係団体の協力を得て選定する。
 - ・男女比は、ホストファミリーの希望を聞きながら調整する。
- 7 日 程

8月10日（土）
新宿駅9：00集合→山梨へ（新宿9：30発J R中央線かいじ11号甲府行き）、J R甲府駅11：14：ホストファミリーと合流（自己紹介等簡単なセレモニー）→ホストファミリーごとに活動にうつる

8月11日（日）
ホストファミリーごとの取り組み

8月12日（月）
午前中はホストファミリーごとに過ごす→山梨県教育会館15：00ホストファミリーとのお別れ会（全体総括会）→J R甲府駅16：50（甲府発17：02発J R中央線あずさ44号新宿行き）→新宿駅着18：45解散
- 8 経 費
 - ・留学生から参加費20,000円を徴収し、協会から交通費（実費）及び食費5,000円を支給する。ホストファミリーへは、諸費用として30,000円を協会より支給する。
- 9 取り組み
 - ・7月24日（水）12：00～ホームステイ参加希望学生説明会
 - ・7月26日（金）15：30～ホームステイホストファミリー説明会
 - ・各ホストファミリーには、計画書を出してもらう。
 - ・ホームステイ希望者には、紹介書類等を出してもらう。
- 10 その他
 - ・留学生には、旅行保険を掛ける。（協会で負担）

（2）ホスト・留学生名簿

	ホスト名	所 属	留学生名	出身学校所在地
1	村松 悟	富士吉田市立富士見台中学校校長	羅 嘉彬 LUO JIABIN	北京市
2	丸山 優	甲府市立大里小学校教諭	宗 俊彤 ZONG JUNTONG	広東省
3	深澤 秀興	昭和町立押原中学校校長	蘇 莉雅 SU LIYA	四川省
4	成島 勇樹	笛吹市立富士見小学校教諭	白 航 BAI HANG	北京市
5	保坂 洋仁	甲州市立勝沼小学校教諭	李 欣航 LI XINHANG	重慶市

（3）ホストファミリーからの報告

よかった点など

- 国と国との交流といったレベルからすると、ミクロの交流であったが、見知らぬ者同士、言葉も上手く通じない者同士が出会い、心を通わせ、最後は共に涙を流しながら別れを惜しむまでに絆を深めることが出来た。とても素敵な時間と経験であった。懸案が山積する日中関係ではあるが、真の和平、信頼関係の構築は、時間はかかるが、こういったミクロの取組の延長線上にあるように感じた。
- 金髪や青い髪の毛。違和感を覚える服装に、当初とまどいを覚えた。しかし、コミュニケーションを重ねる中で、分かりきったことではあったが、人は外見では判断できないということを改めて感じた。人として、教師として、改めて深い学びの場となった。
- 昇仙峡や氷穴など、住んでいるとなかなかいけないところに行くことができたので、私たちにとっても山梨の良いところを再発見できる機会となった。また、山梨の郷土料理であるほうとうを食べてもらいたいと思ったので、手打ち体験を行った。子どもも参加でき、楽しい時間が過ごせた。
- 2日目の夜は、両親や兄弟夫婦も招いて大人数で食事をした。お父さんとお母さんの3人家族ということだったので、大人数での食事に驚いていた。また、中国では、食事中は静かに食べるのがマナーだと言っていたので、日本の団らんを経験させられてよかった。
- 富士山を中心とした観光施設は、地元の住民としてはあまり訪れることがなく、今回のホームステイによって私たち自身にとっても地域を知る良い機会となった。
- 日本語以外の言葉を話す学生を受け入れるということだけでだいぶ緊張感があったが、逆に日本語や日本の文化を学ぶために来ているということを念頭に置いて触れ合うことを意識し、できるだけ自然な会話や接し方を意識して接することができた。
- 好き嫌いなく何でも食べることができたので、いろいろな日本食を食べてもらえることができた。特に麺類が好きということで、山梨の郷土料理のほうとうなど食べてもらうことでよかった。
- 中国の文化や食生活、習慣などいろいろな話を聞くことができ、私たちもこのホームステイを通して勉強することが多かった。
- 2日目からは事前に計画していた内容を実施することができ、おそらく経験したことがないようなプログラムを体験できたかと思います。天候に恵まれたこと、今回の交流を通して、家族でどのようなことを一緒に体験し交流したら良いのかを考え、一緒に行動できたことが良かった点です。
- 長女は英語を使って積極的に会話をし、長男と次女はおもちゃやお店屋さんごっこを通して仲良くなることができました。それぞれの特性を生かして交流を深めることができ良かったです。
- お店屋さんごっこでは、実際に市役所へ出店申請を行い、実家で採れたブドウや手作りのアクセサリなどを販売しました。この体験を通して、留学生のことを考えることで家族で多くのことを得ることができました。
- 温泉も良い思い出になりました。中国では家族でも一緒にお風呂に入ることがないため、留学生も私たち家族

もとても驚きました。このような文化の違いに気づけたことも、良い経験になりました。

○今回の体験を通して、貴重な経験となりました。

○初めての受け入れでしたが、大きな問題もなく終えることができたと思います。どこへ案内をしようか迷いましたが、山梨の良さを知ってもらえるように考えて計画しました。普段、山梨に住んでいると行かない山梨の観光地と一緒に回ることができて、家族全員で楽しむことができました。本人の好きなことが書面だけでは分からず、気を遣った部分もありましたが、会話をする中で徐々にお互いの理解が深まりました。

○すでに日本で生活の経験があったため、家の中での生活も問題なくできました。

学生への評価

○天ぶらに蕎麦、すき焼きに焼き鳥、焼鮭に味噌汁といった日本の朝食、回転寿司といった日本の食文化。蓬莱軒の醤油ラーメンに焼き餃子、炒飯、いわゆる日本人が作る中華料理。みたまの湯で公衆浴場という日本の風俗体験。日本文化に沢山触れ、色々なことを感じて欲しいと企画をしたが、とまどいや違和感の方が多かったと思う。しかし、何事にもチャレンジし、経験を通して日本を感じ・知ろうとする姿勢が随所に見られ、とても好感が持てた。

○最初、靴をそろえて上がることを知らなかった（できなかった？）。そこで、本人の居ない所でそっと靴をそろえてあげたが、次回からは靴をそろえて上がるようになった。気付き、考え、感じる事が出来る素晴らしい若者だった。

○初めは緊張していたが、できるだけ早く慣れようと努力している様子がうかがえた。

○来日してから日が浅いということで、日本語が理解できないところがあったが、理解しようという努力していた。理解ができないときは、簡単な英語やスマートフォンでの翻訳等も活用していた。

○日本の文化を体験してもらおうと畳の部屋に布団を敷いて寝てもらった。朝になると、布団がきれいに直してあったので、たたんで隅の方においておくことを教えたら、次の日からきれいにたたんであった。

○特に母親が日本語を話すことができる環境の中で育ってきたことや、これまでに何度か日本を訪れたことがあるということで、日本に対する関心が非常に高い。

○日本に来ることに対しての目的が明確であり、自らの目標を実現するために日本の大学に進学したいと考えており、学生として向学心が非常に高い。

○とにかく日本語で会話をおこなうように努力していた。わからない表現などがあるとすぐに調べメモに残しておくなど、日本語で一つ一つ丁寧に答えてくれた。

○はじめは緊張していたが、できるだけ早く慣れようと努力している様子がうかがえた。言葉遣いを含め、見学先や家での生活態度はとても礼儀正しくきちんとしていた。

○留学生は、私たちホストファミリー宅に滞在中、日本の初体験をたくさんしました。吉田のうどんやシャインマスカットの収穫、ジビエ料理など、様々な食文化に触れ、その感想を正直に伝えてくれました。

○また、私たちの子どもや親戚ともすぐに仲良くなり、一緒に遊んでいました。日本語がわからない時はスマホで調べてきちんと返事をするなど、コミュニケーションを積極的に取る姿勢が印象的でした。

○真面目な学生でした。日本語も頑張って学んでいることが伺え、日本語でのコミュニケーションも問題なく行えました。若者らしく、分からないことはすぐにスマートフォンで調べるなどして、難しい会話もできました。

○夜に眠れないことがあるということで、昼近くまで学生が寝ていたこともあり、事前に説明した場所には連れて行ってあげることができませんでした。そのような急な変更にも、理解を示し、素直に対応してくれました。また、2人の娘に対しても優しく接してくれたり、旅行した場所でお土産を買ってくれたりするなど、仲良く過ごすことができ、家族としてもよい経験となる3日間でした。

今後への希望、改善して欲しい点

○事前に頂いた「個人データ」には、19歳で、卒業した学校は「〇〇大学」と記してあった。聞けば高校を卒業したばかりということであった。個人データは正確であってほしい。

○個人的に、組合教研に育てていただいたという想いがあり、恩返しのつもりで今回、ホストファミリーをお引き受けした。しかし、若手教員が引き受けた方が、教員としても、日本人としても成長すると共に、中国の若

者にとっても「良い」ように思った。

○事前のプロフィールで何か所か空白があった。食べられないものの欄に記入はなかったが実際には焼いた魚が食べられなかったということもあったので、すべて答えた状態で教えていただいたかった。

○1日目は、駅で解散で、車内での自己紹介となった。運転しながらだと顔を見ながら話をすることもできなかったのも、3日目の交流会のようなものが長い時間でなくてよいので1日目にもあるとよいと思った。

○今回のホームステイは小さなことかもしれないが、日本と中国が互いに理解し合えるきっかけになるとよいと思った。これからもこの事業が益々発展し、日中の架け橋となってほしい。

○2泊3日という期間はちょうどよかったと思います。1日目もお昼の到着でその後の時間も十分とることができ、また、最終日も交流会までの時間も十分に設定されており、よかったと思いました。学生もしっかりしており、受け入れ家族も学生から多くを学ぶことができ、有意義な経験となりました。大変ありがとうございました。

○まず、関係の皆様が、あたたかくサポートしてくださった方々に心より感謝申し上げます。

○今後のホームステイ受け入れに関するご要望ですが、性別や年齢など、もう少し事前に情報を提供していただけると、受け入れ側として大変助かります。特に、年頃の娘さんがいらっしゃるご家庭では、受け入れの際の不安軽減にも繋がるかと思います。

○今回の「教育交流ホームステイ in 山梨」をきっかけに、これからも国際交流の場が必要だと感じました。今後大切に繋がっていくことを願っています。ありがとうございました。

○娘が2人ということで、女子学生のホームステイを手配していただきました。後ほど話を聞くと、男子学生の希望者が多かったということでしたので、申し訳なかったなと思います。せっかくの機会なので、希望する学生がホームステイできるよう、男子学生でも大丈夫であるかなどの事前の打ち合わせがもっとできればよかったと思います。（実際のところは、時間的に厳しい部分もありますが・・・）

全体として、受け入れた私たちも、よい経験になりました。引き続き、このような取り組みが日中の交流につながればよいと思います。ありがとうございました。

（4）留学生からの報告

ホームステイ山梨

羅 嘉彬

先月、私は休暇を利用して、山梨県の富士吉田市へ行きました。そこで日本人の家庭に泊まり、寄宿生活を体験しました。とても楽しい時間を過ごしました。

到着した日の夕方、ホストファミリーが私のために日本の家庭料理を作ってくれました。中でも、特においしかったのはカレーです。日本のカレーは中国のものとは少し違い、甘くてまろやかな味がしました。ホストファミリーはカレーの作り方を教えてくれて、私も挑戦したいと思いました。

滞在中、富士風穴という観光スポットに行きました。風穴は夏でも涼しくて、まるで別世界のような場所でした。ガイドさんから、風穴の歴史やその周辺の自然についていろいろな話を聞いてとても勉強になりました。

また、ホストファミリーと一緒に桃を摘みに行きました。山梨県は果物がとても有名で、特に桃は最高でした。摘みたての桃は甘くてジューシーで、本当に美味しかったです。その場で食べた桃の味は忘れられません。



一番のハイライトは、もちろん富士山を見ることでした。富士吉田市から見る富士山はとても大きくて美しかったです。富士山の美しさに感動し、写真をたくさん撮りました。ホストファミリーから富士山に関するいろいろな話を聞き、日本の文化や歴史についてもっと知りたいと思いました。

この旅で、私は日本人と多くの交流をし、いろいろな面白い知識を学びました。例えば、日本の家庭の習慣や、地元の特産品についてなどです。ホスト



ファミリーの皆さんはとても親切で、私にたくさんのことを教えてくれました。この経験は一生の思い出になりました。

日本ででの寄宿体験を通して、日本の文化をより深く理解することができ、本当に良かったです。また機会があれば、ぜひ山梨に行きたいと思います。



ホームステイ体験の感想

宗 俊彤

8月10日、楽しい気持ちで2泊3日のホームステイに参加しました。みんなでJR中央線で甲府に行き、駅でみんなと会いました。

初日

初日は、赤岡先生ご夫妻と河口湖と忍野八海を訪れました。河口湖の美しさにとても感動し、自然の中で心からリラックスできました。その後、赤岡先生の友人の家に泊まりました。温かく迎えてくれて、心から感謝しました。友人の家はとても快適で、まるで自分の家のように感じました。おいしい料理を食べながら、楽しい会話を楽しみました。旅行中の出来事や体験を共有する時間は、本当に感動的でした。



2日目

2日目には、初めてお会いする丸山家のホストファミリーに会いました。最初は緊張しましたが、彼らの温かい歓迎とフレンドリーな性格ですぐに安心しました。ぶどう狩りでは、摘みだてのぶどうの甘さを楽しみ、ぶどうの収穫がとても楽しかったです。ぶどうの出荷プロセスも学びました。その後、富士岳風穴に行きました。次に、富士山本宮浅間大社に参拝しました。富士山の美しい景色に感動しました。神社の参拝方法も学び、手水舎で手と口を清めてから「二礼二拍手一礼」で参拝しました。神社とお寺の参拝方法の違いも理解しました。夜には、手持ち花火や打ち上げ花火、ロケット花火を楽しみました。日本の温泉文化に初めて触れたので、公共の場で裸になるのに抵抗があり、今回は温泉に入らなかったです。でも、将来はぜひ日本の温泉も体験したいです。

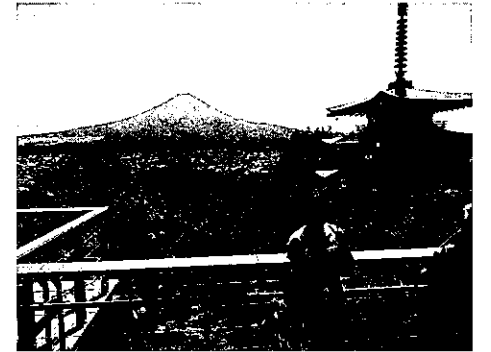


3日目

3日目は、流し素麺を作って食べました。素麺が流れるのを見ながらタイミングよく掴むのがゲームみたいで、とても楽しかったです。その後、バーベキューではイノシシや熊、シカなど珍しい食材を試しました。これまでにない味わいに体験し、楽しい食事の時間を過ごしました。また、お店屋さん体験では、子どもたちと一

緒にシャインマスカットを販売し、接客の楽しさを実感しました。最後に、桔梗信玄餅工場見学もしました。

桔梗信玄餅がどう作られるかを実際に見ることができ、手作業や機械の動きについて学びました。



最後に

あっという間の3日間で、山梨県という美しい場所と、丸山一家の温かさに心から感謝しています。丸山さん一家は、ぶどうやお土産をプレゼントしてくれました。本当に感動しました。このホームステイで、日本の美しい風景や文化、おいしい食べ物を体験できて、とても貴重な思い出になりました。

ホームステイの感想

苏 莉雅

8月10日（土曜日）天気：晴れ

今日は8時に起きました。ちょっと早いです。日本でホームステイするのは初めてだったので、とても緊張でした。ホストファミリーは、父と娘です。私の世話をするために、日本語をゆっくり話しています。おそばと天ぷらを食べに連れて行ってくれました。有名なアイスクリームを食べに連れて行ってくれたり、牛や馬を見せてくれたりしました。夜は家で、奥様が作った料理を食べました。家庭的な匂いがしています。それから初めてのお風呂でした。

明日も期待ですね！



8月11日（日曜日）天気：晴れ

今日は8時に起きました。朝ご飯を食べました。サーモンとみそ汁もおいしかったです。それから大石公園へ行きました。富士山を見ることができました。有名だから人がたくさんでした。富士浅間神社に行きました。神社に入るにはお辞儀をすることを、初めて知りました。神様が通った道だそうです。とてもおもしろかったです。おまもりを買いました。温泉に入りました。初めて日本ではだったので、最初は驚きと恥ずかしさで、でも、いい気持ちでした。

明日は、ホームステイが終わってしまいます。ちょっと、みんなが惜しいですね。

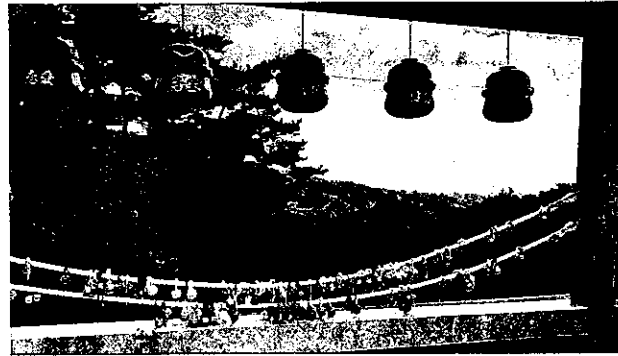


8月12日（月曜日）天気：晴れ

今日も8時に起きました。トーストと牛乳を食べました。それから身延山久遠寺へ行きました。たて物は、とても古くて久遠です。昼ご飯は、「蓬莱軒」というお店で食べました。人名があるし、食べ物が美味しいし、私たちは餃子とチャーハンを食べました。中華料理と同じ味です。

最後、ホームステイのみんなで、一緒に会議を開きました。三日間の感想を話しました。私のホストファミリー、とてもありがとうございました。とてもお世話になりました。皆で名残惜しかったです。今度会うことが、とても待ち遠しいです。

夏休みに学校の行事で、山梨県に行きました。8月10日の午前中に、山梨県に着きました。先生の家族が、私を迎えに来てくれました。先生の家2人の娘さんがとてもかわいかったです。



8月10日の午後は、先生のご家族とすき焼きとラーメン作りを体験し、一緒に手作りの鍋を食べました。先生にもお世話になりました。食べ物や私の好みを、気にかけてくださいました。日本に来てからすき焼きを食べるのは初めてなので、楽しかったです。

田舎の環境はとても良くて、どこもかしこも美しい景色です。

8月10日の夜、先生の家族は私を連れて近くの夏祭りに参加しました。地元の人は浴衣を着て、髪を結います。可愛い女の子と並んで、かき氷を買ったり、ステージを囲んでみんなで夏記念のダンスを踊ったりしていました。でも、残念ながら、たこ焼きは食べられませんでした。

8月11日は、日本の伝統的な祝日「山の日」で、先生は私を富士山博物館に連れて行ってくれました。そこで私は、富士山の歴史や様々な面白いことを知りました。休憩室の本棚に素敵な絵本を見つけました。お昼にラーメンを食べました。先生は馬肉で作ったと言いました。中国人は、馬肉をあまり食べないので、驚きました。

夜は、先生の家族と一緒に夕食を食べました。先生の家族はたくさんいます。8人です。彼らはみんな親切ですが、私は日本語が下手で恥ずかしかったです。彼らは喜んで話をしてくれて、私の好みを尋ねてくれます。この食事はとても楽しくて、私の家は私と両親だけなので、私はいつもとても孤独だと感じていました。だから、にぎやかな先生の一家が、とてもうらやましかったです。食事の後は、一緒にスイカを食べて、とても楽しかったです。日本人は、注意深い人ばかりで、資料をよく見て、私の好みをメモしてくれるので、注目されているのがいいなと感じました。

8月12日は最終日でしたが、時間の経つのがとても速く感じました。朝、家族総出で、近所のひまわり畑に行きました。こんなにたくさんのヒマワリを見たのは初めてで、暑かったけど、景色がとても良かったです。太陽に向かうヒマワリは、夏を感じさせます。午後、先生にたこ焼きを買いに連れてってもらいました。山梨のたこ焼きは大阪とは味が違うので、ぜひ食べてみてくださいと言われました。これまで残念に思っていたたこ焼きを、先生が気づいてくれたことに、本当に感動しました。繊細な家族に、本当に癒されました。私もこの家族から多くのことを学び、将来の生活に役立てていきます。先生は私とそれほど年は違わなかったのですが、家族に対してはしっかりしていて庭で子どもとボール遊びをしてあげたりしていました。先生の奥さんも一緒にアニメを見たり、お菓子を買ってきてくれたりしました。そうやってのびのびと生きているのは、本当にうらやましいほど幸せな状態だと思いました。



第一日目は富士山博物館と船旅

山梨での旅がスタートした。初日は富士山博物館を訪れた。ここでは最新のVR（バーチャルリアリティ）技術を使って、富士山の全景を楽しむことができた。まるで本当に富士山の頂上にいるかのような体験で、とても迫力があつた。VRを通じて、普段見られないような視点から富士山を見ることができて、感動した。その後、みんなで船に乗り、湖から富士山を眺めた。船の上から見る富士山はとても美しく、特に湖面に映る逆さ富士の姿は息をのむほど美しかった。天気にも恵まれて、最高の景色を楽しめた。



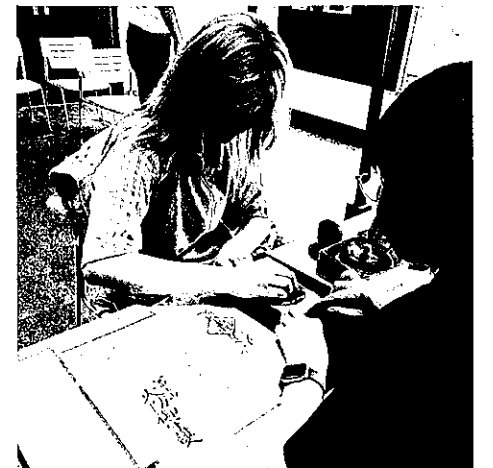
第二日目は草原とバーベキュー

2日目は広大な草原に行き、牛を見学した。草原での風景は開放的で、牛たちがのんびりと過ごしている姿に癒された。その後、みんなでバーベキューを楽しんだ。炭火で焼いた肉は格別で、特に地元の牛肉はとても柔らかくて美味しかった。自分でたこ焼きを作る体験もした。初めて作るので少し苦戦したが、なんとか丸い形に仕上がりと、一緒に食べたたこ焼きは最高だった。



第三日目は宝石博物館と宝探しゲーム

最終日は宝石博物館を訪れた。博物館には色とりどりの美しい宝石が展示されていて、その輝きに目を奪われた。各地から集められた珍しい宝石も見ることができ、学びの多い時間だった。また、博物館では「宝石探しゲーム」にも参加した。沙に隠された小さな宝石を探すゲームで、皆で協力しながら宝石を見つけることができた。このゲームは楽しく、さらに自分が見つけた宝石は記念に持ち帰ることができた。



今回の山梨旅行は、自然や文化、食事を通じてたくさんの素晴らしい体験ができた。特に富士山のVR観賞や宝石探しゲームは、普通の観光とは一味違った特別な思い出となった。次回はもっと多くの場所を探索して、この素晴らしい町の魅力をさらに感じたいと思う。

また、山梨でホームステイしたいと思った。

第7回日中教育文化交流シンポジウム（教育交流 研究等助成事業）

今年度は、二部構成にして、「第5回・第6回日中教育文化交流シンポジウム」の研修会的な要素を持った形式を第一部に、以前に行っていた作文コンクール等で日本との交流に意識を持っている学生とのシンポジウムを第二部として行いました。第一部は、昨年9月に実施した役員訪中団の成果の報告と今後の取り組みへの課題提起を代表理事のレポートを通して、討論形式で行いました。第二部は、第20回日本語作文コンクールで、最優秀賞・教育賞・一等賞を受賞し6名の中国人大学生の意見発表をもとに、日中の教育文化の交流をシンポジウムの形で行いました。

このシンポジウムを通して「日中教育文化交流の意義」について、より深く検証し、今後の日中教育文化交流の展望や課題に焦点を当てるという成果を上げることができました。

（1）実施要項

- 1 実施目的 ○日中教育文化交流の意義についての理解を深め、今後の取り組みの在り方について考える機会とする。
- 2 実施日時 2025年2月21日（金） 14：00～17：00
- 3 実施場所 日本教育会館9階第五会議室
- 4 参加者 ・協会顧問・理事・評議員・公益事業審査委員・会員・団体会員他（計66名）
- 5 内 容 第一部＝「日中教育交流の現状と今後について」
 - ・基調提案—協会代表理事 中村武志
 第二部＝中国人学生との意見交流（日本語作文コンクール受賞者）
 - ・コーディネーター 中村武志（協会代表理事）
 - ・シンポジスト
 - テーマ①「AI時代の日中交流—プラットフォームの構築を考える」
 - 林 芳菲 （大連外国語大学 日本語作文コンクール最優秀賞）
 - 欧 芊序 （大連外国語大学 日本語作文コンクール1等賞・教育賞）
 - 徐 思琪 （復旦大学 日本語作文コンクール1等賞）
 - テーマ②「先輩に学び日本語学習を頑張る」
 - 林 婧 （天津外国語大学 日本語作文コンクール1等賞・教育賞）
 - 池 翰林 （中国人民大学 日本語作文コンクール1等賞）
 - 麻 月朋 （吉林大学 日本語作文コンクール1等賞）
- 6 日 程 シンポジウム
 - 13：30 開場・受付
 - 14：00 開会 司会 赤岡直人（協会業務執行理事）
 - 代表理事挨拶 中村武志
 - 顧問挨拶 興石 東（元参議院副議長）
 - 14：10 第一部
 - 「日中教育交流の現状と今後について」
 - 基調提案—意見交換（参加者）
 - 第二部
 - 「中国人学生との意見交流」
 - 意見発表（各自約10分）—意見交換（参加者）
 - 17：00 閉会



（2）内容報告

①第1部

日中教育交流の現状と今後について ～「試的・私的」展望を含めて～

はじめに

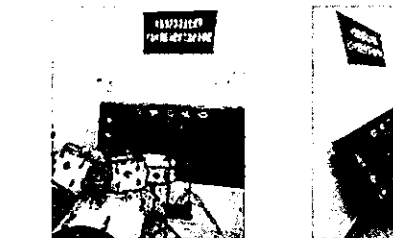
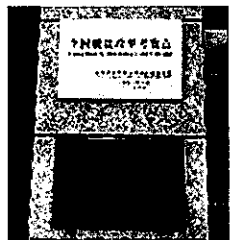
5年ぶりの訪中 ビザあり渡航

河北省保定市阜平县…北京より車で3時間半（大半が高速道）

かつて中国の最貧困地区の一つ 国（党）あげてその撲滅に取り組む

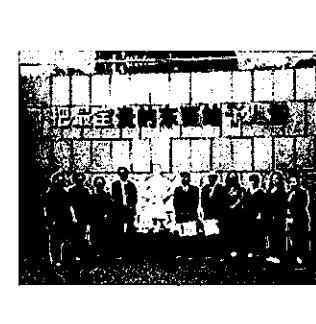
1、5年ぶりの中国訪問（2024年9月9日～12日）

○河北省保定市阜平县（職業技術教育センター 白河小学校 教育扶貧展示館）



教育体育局との懇談において…「私には夢がある…」

2、北京（宋慶齡青少年科学文化交流センター 同幼稚園）



宋慶齡基金会との懇談において…「（この間の）音楽教育を中心とした教育交流は…」

3、教育交流の今後（希望と期待を込めて）

○（国際）教育交流の意義

自らの立ち位置を知る→未来を展望する→運動に反映する（現場からの教育改革）

友を得る→「草の根」の国際交流…→「以民促官」

○なぜ中国か

一衣帯水 間違いなく「巨大な隣人」

歴史的にみて日中関係は日本社会のありよう・方向を規定する重要要素

この間構築してきた「パイプ」

○交流のこれから

今回の訪問を出発点に交流（国）の質的・量的拡大を

2024年協会役員レベル→2025年協会役員＋各都県代表＋参加団体代表→→

→→2030年 現場レベルの相互訪問

おわりにかえて

未来を見すえた議論を 身の丈に応じた活動を

②第2部は

6名の中国の大学生が、それぞれのテーマ及び作文コンクールへの応募とその後の体験を通して感じたこと考えたことについて発表しました。

テーマ①「AI時代の日中交流—プラットフォームの構築を考える」については、以下のような考えをベースに話された。「AI単なるツールである。人間とのコミュニケーションはそれとは違う。人間はデータを処理するアプリではない。コミュニケーションが進むと、言葉の交換だけでなく、感情の流れ、文化のぶつかり合いなども重要な要素となる。」「発達したAIで、まるでその現場にいるような「没入感」を与えてくれるVR体験を提供するプラットフォームがあればいい。遠く離れた友達と一緒にいることができる空間だ。まるで現実の世界のような、遠く離れているのに、その瞬間を一緒に実感できる。」

テーマ②「先輩に学び日本語学習を頑張る」では、以下のような話をベースに話された。「先輩の日本語に対する丁寧さや情熱に影響されて、いつも何も知らない子供のように好奇心を持ち、日本語の世界を探索するようになった。身の回りの美しい日本語の物語を掘り下げていきたい。これから、あらゆることについてステレオタイプではなく新たな視点で見ようと決めました。」「私は恩師や先輩たちの足跡を辿りながら歩いている。また誰かが歩いてくるだろう。繋がりが、重なっている道で、私は夢を追っている。」「目標に向かって努力し続けること、自分に厳しく他人にやさしく生きていきたい。」

現在の中国の若者たちの考え方や生き方が、数多く話され、また、参加者からの質問によってより深くより広く話し合いが展開されて、大いに意味のあるシンポジウムになりました。



第1回 田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール（教育交流 研究等助成事業）

2024年度第1回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクールを実施しました。奨学基金の事業として、ここ数年来の懸案だった、中国人留学生以外を対象とする事業を展開し、具体的に日本語教育・日本との文化交流、そして就学の援助へとつながり発展する形での取り組みとして、日本語作文コンクールは大いに意義ある取り組みとなりました。

沢山の作品の中から、10点を入選作品として選んでいただきました。そして、その入選作品の中から5点を、優秀賞として、公益事業検討委員の5名に、内容40点、文法30点、表現30点の合計100点満点で、採点していただき、その合計点で選出しました。

どの入選作品を見ても、内容が素晴らしく、良い取り組みになりました。入選者には、以下の奨学金を表彰状と一緒に渡しました。

★優秀賞（3万円）5名

★入 選（1万円）5名



（1）第1回 田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール実施要項

1. 目 的 将来への夢や希望をもって、日本語学習に取り組んでいる留学生を対象に、学習の励みとなり、また、直接学習の成果にもつながる「日本語作文コンクール」を実施し、すぐれた作品執筆者に賞を付与することで、今後の日本語学習の支援を行う。
2. 期 日 募集期間 2025年1月27日(月)～2月14日(火)
第1次審査 2月14日(火)～2月20日(木)
第2次審査 2月21日(金)～2月28日(金)
表彰式 3月8日(土)
3. 募集内容 (1)募集方法
・中国からの留学生以外を作文募集の対象とする
・作文の呼びかけ・取りまとめは、日本語学校の先生方を通して行う
(2)テーマ
①日本語学校で学んで
②文化の違いに気づいた
③私の見つけた日本
④私の好きな日本語
(3)字数
第1次審査 400字
第2次審査 1000字
4. 審 査 (1)1次審査は、フジ国際語学院の石塚憲子先生を責任者として、担当の先生方に行っていただく。
(2)2次審査は、日本中国国際教育交流協会公益事業審査委員が行う。
(3)作文について、内容40点・文法30点・表現30点の合計100点満点での得点で評価する。
(4)第1次審査で10名を入選とする。第2次審査では、入選者の中から優秀賞5名を選考する。
5. 賞 (1)優秀賞・入選者とも賞状を授与する。
(2)優秀賞者（5名）には奨学金として3万円を、入選者（5名）には1万円を授与する。

6. その他 (1)この事業は、公益財団法人日本中国国際教育交流協会の研究等助成事業の一つとして実施する。
- (2)募集等の具体的な取り組みについては、フジ国際語学院に協力をお願いする。

(2) 入選者名簿

	氏 名	出身国	題 名	入 賞
1	DANAO JOSHUA CAMSON ジョシュア	フィリピン	日本の「和」とフィリピンの「バヤニハン」	優秀
2	TAMANG SOONIL スニール	ネパール	あきらめないでください	
3	GAZI MD PARVEZ パルベズ	バングラデシュ	日本留学で発見した新しい自分	
4	RAI RAJESH ラジェス	ネパール	人生の軌跡	
5	MAJHI ANJANA アンザナ	ネパール	私の好きな日本	優秀
6	GHALE LOK RAJ ラジュ	ネパール	日本とネパールの文化の違い	
7	KHAREL AASTHA アスタ	ネパール	私の好きな日本語	優秀
8	SHRESTHA ANITA アニタ	ネパール	私の好きな日本語	
9	NGUYEN CONG DANH ダン	ベトナム	各国の文化の違いについて	優秀
10	FERRER ROSELLE IRANDILLA ロゼル	フィリピン	日本留学で学んだこと	優秀

(3) 優秀作品

日本の「和」とフィリピンの「バヤニハン」

DANAO JOSHUA CAMSON

日本への留学をきっかけに私は日本人とフィリピン人の行動の違いについて考えるようになった。

日本へ来て日本人は「和」という考え方をとても大切にしていると思った。「和」とは皆と仲良くし、ルールを守りけんかをしないことだ。日本では電車の中で静かにする。仕事や学校でチームワークを大切にするなど周りの人に気をつかう文化がある。だから、日本の社会はスムーズに動いていると感じる。日本では相手の気持ちを考え、できるだけトラブルを避けることが大切だとされているように思う。

一方、フィリピンには「バヤニハン」という助け合いの文化がある。フィリピンの人は、困っている人がいたら、知らない人でもすぐに助ける。引っ越しの時、近所の人が皆で荷物を運ぶ習慣もある。台風や地震の時は、家族や近所の人と協力し、食べ物を分けたり、一緒に家を直したりする。フィリピンでは、人とのつながりがとても大切で、困っている人を見たら、すぐ行動するのが普通だ。家族や地域の人々と助け合うことでみんなが安心して暮らせる。

「バヤニハン」という言葉は「英雄」を意味する「バヤニ」から来ていて、人を助けることは小さな英雄のような行動だと考えられている。日本では助け合いは政府や市役所が計画することが多いけれどフィリピンでは近所の人々がすぐに自分から助けるのが特徴だ。誰かが助けを求めるのを待たずに、必要だと思ったらすぐに行動する。フィリピンでは、人とのつながりが強く、助けることが当たり前になっている。

日本とフィリピンはどちらも助け合いを大切にするけれどそのやり方が少し違うように思う。日本ではルール

を守ることで調和を保ち、フィリピンでは人とのつながりを大切にすることで強い絆が生まれる。私はこの二つの文化を学び、日本でも積極的に助け合うことを大切にしていきたいと思っている。

日本の社会にフィリピンの「バヤニハン」を取り入れると、仕事や近所でお互いをもっと助け合うようになり、孤立感が減り、つながりが深まるのではないか。また日本の「和」の考え方をフィリピン社会に取り入れることで、公共の場での行動に対する配慮が増え、人との間でのトラブルが減り、調和が生まれるのではないか。両者を合わせれば効率的で思いやりのある社会が実現できるかもしれない。どちらの考え方もすばらしく、お互いの文化を学ぶことでもっと良い社会を作ることができるのではないかと考えている。

私の好きな日本

MAJHI ANJANA

まさか”日本のアニメがきっかけで、私の人生が大きく左右されるなんて、思ってもみませんでした。高校生の頃になんとか見始めたアニメ。それが「ナルト」でした。私はナルトに出会い、その先の人生が大きく変化していきました。当時の私は、日本語がまったくわからなかったので字幕で見えていました。次第に、「字幕なしで見たい!」、「元の日本語ならどういう言葉で言っているのだろう」などと、日本語に興味が湧いてきました。とはいえ、日本語を勉強できる環境はなかったので、まずはひらがな、カタカナの練習から始めました。その後、オンラインで日本語のレッスンをしました。勉強していくにつれ、日本語だけでなく、日本文化も知りたくなり、日本留学を決意しました。

私は2023年11月、富士日本語学校に入学しました。日本に来る前は、留学の一番大切な目的は日本語を身に付け、ペラペラと話せるようになることだと思いました。しかし、今考えるとそうではないのかもしれないと思います。たとえ日本語能力だけが身に付いたとしても、異文化や日本人との関わり、習慣などを理解できなければ、自分を成長させることができません。一番大切なのは、日本をよりよく知り、より日本を好きになることだと思いました。そんな私が、文化間の違いに気付いたことは、掃除やマナーの習慣です。ネパールでは、学校の教室や、学校の周辺の掃除をすることはあまりありません。しかし、日本の学校は掃除の時間があります。掃除だけでなく、机はきれいに並べる、椅子は必ずしまうなど細かいところも注意しています。もちろん、ネパールでも自分たちのテリトリー、例えば家などを掃除することはありますが、公共の場を掃除する概念はありません。日本人は、公共の場でも自分の家のように大切にきれいに扱います。日本がきれいな国と言われている理由がよくわかった瞬間でした。私はこの文化が大好きです。

最後に、私が好きな日本語を紹介します。「まっすぐの自分の言葉は曲げない」です。これは冒頭でも書いた、私の大好きなナルト5巻からの名言を抜粋したものです。この言葉は、私の激励の言葉です。外国人の私にとって、異国の地で生活していくのは簡単なことではなく、自分で決意した心が揺らぎそうになることもあります。そんな時、留学前に決めた目標と、大好きなナルトの名言を思い出すようにしています。この先も、自分の強い意志を持ち続け、専門学校に行っても日々成長していきたいと思っています。

私の好きな日本語

KHAREL AASTHA

私の好きな日本語の文章は、「みんなの日本語」で習った「友達と旅行に行きました。とても楽しかったです。」です。

この文章が好きな理由は、シンプルですが、読むだけで幸せな気持ちになるからです。「友達と」というフレーズは、一人ではなく友と一緒に過ごす楽しい時間を想像させます。そして「とても楽しかった」というフレーズは、その旅行がどれほど素晴らしかったかを感じさせます。この文章は文法の練習にもよいと思います。「～しました」と動詞を使って、過去のことを話せます。さらに、「とても」という言葉を使うことで、より強く気持ちを伝えることができます。このようなシンプルで心温まる文章で、日本語の勉強がさらに楽しくなります。